

System i システム稼動状況分析

PM for System i セットアップ・ガイド

2010 年 6 月版

- 目次 -

注) 当ガイド内では、OS バージョン V5R2 の表示画面を使用しております。
OS バージョンによってはメニュー内の表現が異なる場合がありますが、機能は同じです。

1. かんたんセットアップ	
1-1. PM for System i の構成および連絡先情報の処理	1
1-2. 接続電話番号の設定	3
1-3. データのテスト送信	4
1-3-1. 送信用データの作成	4
1-3-2. データのテスト送信	5
2. ご確認事項	
2-1. 接続の確認および検証	6
2-1-1. 接続の確認	6
2-1-2. 接続の検証	6
2-2. スケジューラーの稼動確認	7
2-3. データが収集されない場合	7
2-4. データが送信されない場合	9

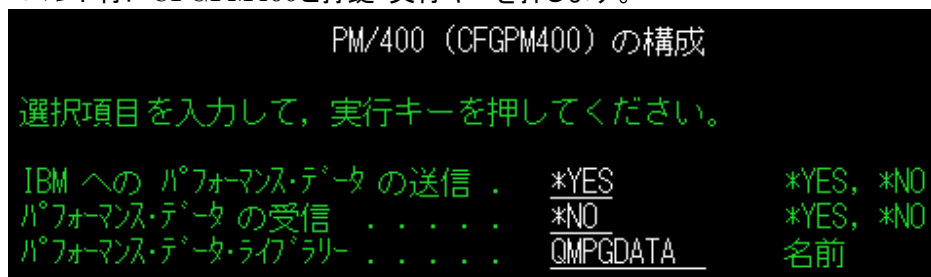
PM for System i では、他システムのパフォーマンス・データを 1 つのシステム(あるいは LPAR)から一括して送信する仕組みも用意しております。
設定方法については、別冊「PM for System i メニュー・ガイド」6 ページの「リモート ISERIES システムの処理」をご参照ください。

PM for System i メニュー (コマンド GO PM400) で表示される、各々の機能につきましても、同じく別冊「PM for System i メニュー・ガイド」をご参照ください。

1. かんたんセットアップ

1-1. PM for System iの構成および連絡先情報の処理

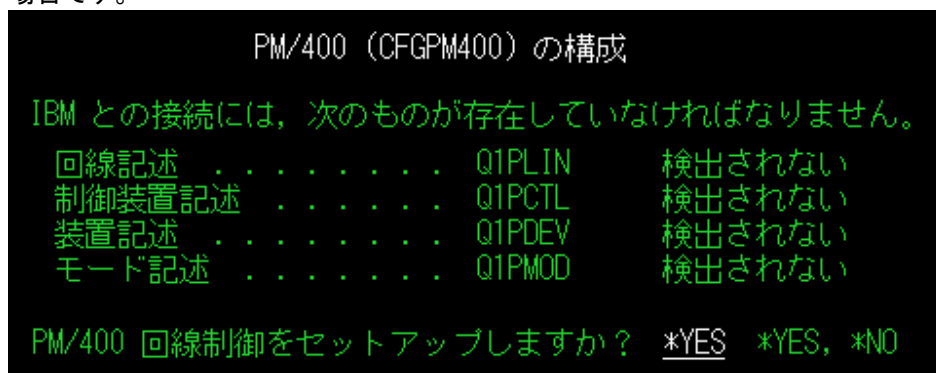
コマンド行にCFGPM400と打鍵・実行キーを押します。



パラメーターの値を確認後、実行キーを押します。
 必要がある場合のみ、下記のパラメーターの説明を参照して変更してください。

パラメーター	説明
IBMへのパフォーマンス・データの送信	*YES このシステムはパフォーマンス・データを直接IBMに送信します。 *NO このシステムはパフォーマンス・データを直接IBMに送信しません。別のシステムにパフォーマンス・データを転送します。
パフォーマンス・データの受信	*NO このシステムは、別のシステムからデータを受信しません。 *YES このシステムは、別のシステムからデータを受信します。
パフォーマンス・データ・ライブラリー	パフォーマンス・データを保存するライブラリー。 省略値のQMPGDATAで結構です。

実行キーを押した後、下記の画面が表示されます。
 この画面が表示されるのは、「IBMへのパフォーマンス・データの送信」パラメーターを*YESに指定した場合です。



既に構成記述が存在している場合*1は、「検出されない」が「検出」になっています。

*1 既に構成記述が存在する理由として、以下の2つが考えられます。

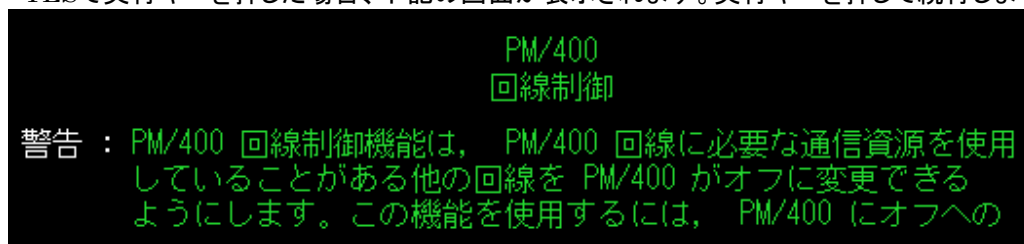
1. この構成記述が存在するバックアップ・テープを復元した。
2. QSYSOPRに表示される「PM/400を活動化しますか？」にG(=Go)を応答した。

「PM/400回線制御」は、PM for System iで使用するQ1PLINと、それ以外の回線(例. ROMSLIN1, QESLINEなど)を1つの回線資源で共用する場合にセットアップします。

* 1つの回線資源を複数回線で共用しているかどうかは、9ページの【確認方法】をご参照ください。

PM for System i単独で使用する場合、または後ほど設定する場合(コマンド:PMLINMONを使用)は*NOを指定します。*NOを指定した場合は、次ページの連絡先情報の入力画面が表示されます。

*YESで実行キーを押した場合、下記の画面が表示されます。実行キーを押して続行します。



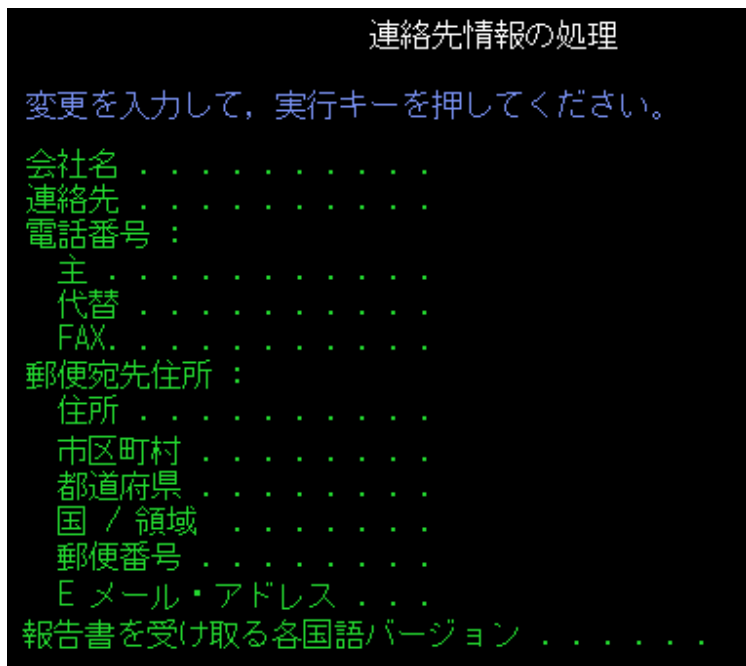
回線の登録画面が表示されます。最大12個まで登録可能です。装置フィールドは、最大2個まで登録が可能となっておりますが、1つしか装置記述がない場合はその1つのみ登録で結構です。



入力情報の確認画面が表示されます。正しければ実行キーを押します。



上記完了後、あるいはPM/400回線制御のセットアップに*NOを指定した場合、お客様情報の入力画面が表示されます。コマンドWRKCNTINFの「2. 保守情報の処理」⇒「1. 保守要求連絡先情報の表示」画面の情報を取り込むため、既に情報が入力されている場合があります。変更する場合は、この画面から行ないます。



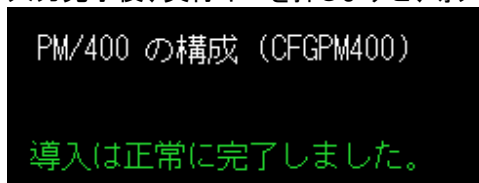
各パラメーターにお客様情報を半角英語で入力します。漢字、平仮名およびカタカナ(全角・半角)は、レポート表示の際に文字化けを起こしますので、ご使用はご遠慮ください。

都道府県入力フィールドが3桁しかない場合は、市区町村フィールドに合わせて入力してください(例: MINATO-KU/TOKYO)。

また Email アドレス欄は、**レポート閲覧に必要な登録キー(ユーザーID/パスワード)をお届けするために使用しますので、必ずご入力ください。**英小文字が入力できない場合は、英大文字で結構です。

「報告書を受け取る各国語バージョン」欄は、レポートを表示するのに使用される言語を指定します。日本語表示をご希望の場合は2962を、その他の言語表示をご希望の場合はF4キーを押して選択します。

入力完了後、実行キーを押しますと、導入の正常完了メッセージが表示されます。



1-2. 接続電話番号の設定

お客様システムで収集したデータを弊社センターへ送信するために、接続先電話番号を設定します。

コマンドGO PM400と打鍵・実行キーを押すとメニューが表示されますので、「3. PM/400 カスタマイズの処理」を選択します。その後、次ページ・キーを押し、次の画面に進みます。

PM/400 カスタマイズの処理

変更を入力して、実行キーを押してください。

IBM PM/400 電話番号 _____

パラメーター	機能
IBM PM/400 電話番号	接続電話番号*1を入力します。

*1 2010/06 現在、接続電話番号は 043-297-9207 です。

このフィールドへの入力値一覧

弊社外付けモデム*2		内線発信(ゼロ発信の場合)		ZYXEL モデム	
トーン	パルス	トーン	パルス	トーン	パルス
SST0432979207	SSP0432979207	SST00432979207	SSP00432979207	T0432979207	P0432979207

*2 内蔵モデムは対応していません。内蔵モデムをご利用の場合は、サービス・エージェントの導入が必要となります。

入力後、実行キーを押して完了します。これでセットアップは完了です。続いて、データのテスト送信を行います。

1-3. データのテスト送信

弊社センターへデータをテスト送信します。

この作業は、弊社センターでお客様のセットアップ完了を把握するために必要となります。

但し、日曜0:00から月曜12:00まではセンター・メンテナンス時間帯となるため、この時間帯以外でテスト送信をお願いいたします。

1-3-1. 送信用データの作成

コマンドGO PM400と打鍵・実行キーを押すとメニューが表示されますので、「2. 自動スケジュール済みジョブの処理」を選択します。ジョブ一覧画面が表示されますので、ジョブQ1PDRを”2”で変更します。

OPT	名前
②	Q1PPMCHK
2	Q1PDR
-	Q1PCM2

「次の実行日付」および「次の実行時刻」を現時間に変更して、実行キーを押してください。

最下部に確認メッセージが表示されますので、再度実行キーを押してジョブ一覧画面に戻ります。

なお、現時間より数分前の時間(バックデート)を入力すると即時にジョブが稼働します。

ジョブ一覧画面から、F5キーを繰り返し押しますと、最新状況が表示されます。ジョブQ1PDRがサブミットされると、変更したスケジュール日時が翌日に変わります。

このQ1PDRは収集したデータを送信用に圧縮・変換するジョブです。コマンドWRKACTJOB SBS(QSYSWRK)で、ジョブQ1PDRの稼働および完了を確認します。

1-3-2. データのテスト送信

コマンドGO PM400と打鍵・実行キーを押すとメニューが表示されますので、「2. 自動スケジュール済みジョブの処理」を選択します。ジョブ一覧画面が表示されますので、ジョブQ1PCM1を”2”で変更します。

OPT	名前
	Q1PCM2
2	Q1PCM1
-	Q1PPMCHK

「次の実行日付」および「次の実行時刻」を現時間に変更して、実行キーを押してください。最下部に確認メッセージが表示されますので、再度実行キーを押してジョブ一覧画面に戻ります。なお、現時間より数分前の時間(バックデート)を入力すると即時にジョブが稼働します。ジョブ一覧画面から、F5キーを繰り返し押しますと、最新状況が表示されます。ジョブQ1PCM1がサブミットされますと、変更したスケジュール日時が翌週に変わります。このQ1PCM1はデータを送信するジョブです。モデムの発信音やコマンドWRKCFGSTS *LIN Q1PLINで、ジョブQ1PCM1の稼働を確認します。

記述	状況
Q1PLIN	活動状態
Q1PCTL	活動状態
Q1PDEV	活動状態
Q1PMOD	活動状態 / ターゲット

ジョブQ1PCM1が稼働中の場合は、回線記述Q1PLIN・制御装置記述Q1PCTL・装置記述Q1PDEV・モード記述Q1PMODがすべて活動状態になっています。送信データが少ないために「活動状態にはなるが、一瞬にして完了してしまう」という場合がありますが、その場合は、このテスト送信を翌日に行なうことをお勧めします。

また、コマンドDSPMSG QSYSOPRでも、メッセージが確認できます。

【 正常完了の場合のメッセージ 】

回線Q1PLINが正常にオンに構成変更された。
回線Q1PLINの制御装置Q1PCTLが接続された。
モードBLANK 装置Q1PDEVのセッションの最大数は設定されなかった。
モード#INTER 装置Q1PDEVのセッションの最大数は設定されなかった。
装置Q1PDEVのすべてのセッションが終了した。

この状態が確認されますとテスト送信が正常に行なわれております。下記のメッセージが表示された場合は次ページ以降の「ご確認事項」をご参照ください。

【 正常完了でない場合のメッセージ 】

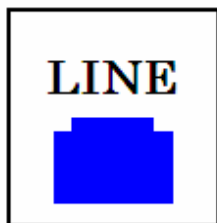
回線Q1PLINが正常にオンに構成変更された。
回線Q1PLINの制御装置Q1PCTLが接続された。
モードBLANK 装置Q1PDEVのセッションの最大数は設定されなかった。
モード#INTER 装置Q1PDEVのセッションの最大数は設定されなかった。
送信元 . . : QPM400 10/06/01 0:00:01
DSPLY
装置Q1PDEVのすべてのセッションが終了した。

2. ご確認事項

2-1. 接続の確認および検証

2-1-1. 接続の確認

「1-2. 接続電話番号の設定」で述べましたとおり、内蔵モデムは対応しておりません。外付けモデムと電話回線が接続され、通信可能な状態であることが前提です。



1. 電話回線は、モデム側のLINE表示(上図)のジャックに差してあること
2. モデムーSystem iの間は、通信ケーブルが接続されていること

2-1-2. 接続の検証

上記の接続状況を確認後、実際に通信が可能かどうかのテストを行ないます。コマンド行にSNDSRVRQS *TESTと打鍵・実行キーを押し、テスト結果を確認します。以下の図はテストの成功例です。

```
==> SNDSRVRQS ACTION(*TEST)
F21= 命令／キーの表示
リモート・システムに接続中。しばらくお待ちください。
```



```
==> SNDSRVRQS ACTION(*TEST)
F21= 命令／キーの表示
保守サポート・システムへのサインオンが進行中である。
```



```
==> SNDSRVRQS ACTION(*TEST)
F21= 命令／キーの表示
保守サポート・システムへのサインオンが完了した。
```



```
==> SNDSRVRQS ACTION(*TEST)
F21= 命令／キーの表示
*IBMSRV へのテスト要求送信中。
```



```
==>
F21= 命令／キーの表示
テスト要求が完了した。
```

2-2. スケジューラーの稼働確認

コマンドWRKACTJOB SBS(QSYSWRK)にて、PM for System iのスケジューラーが稼働しているかどうか確認します。スケジューラー名はQ1PSCHです。

サブシステム/ジョブ	ユーザー	タイプ
QSYSWRK	QSYS	SBS
CRTPFRTA	QSYS	BCH
⋮		
QYPSFRCOL	QSYS	BCH
⋮		
Q1PSCH	QPM400	BCH

また、PM for System iの自動開始ジョブ項目が追加されているかどうかを確認します。コマンドDSPSBS QSYSWRKと打鍵・実行キーを押し、「3. 自動開始ジョブ項目」を選択します。ジョブ: QPM400、ジョブ記述: Q1PJOB、ライブラリー: QSYSが表示されない場合、コマンドADDAJE SBS(QSYSWRK) JOB(QPM400) JOBD(Q1PJOB)で追加します。

ジョブ	ジョブ記述	ライブラリー
QPM400	Q1PJOB	QSYS

2-3. データが収集されない場合

コマンドWRKACTJOB SBS(QSYSWRK)にて、収集サービスが稼働しているかどうか確認します。収集サービス名はCRTPFRTAとQYPSFRCOLの2つです。

サブシステム/ジョブ	ユーザー	タイプ
QSYSWRK	QSYS	SBS
CRTPFRTA	QSYS	BCH
⋮		
QYPSFRCOL	QSYS	BCH
⋮		
Q1PSCH	QPM400	BCH

ジョブCRTPFRTAが稼働しない主要原因として、旧バージョンで収集されたパフォーマンス・データが存在することが挙げられます。この場合、コマンドWRKJOB CRTPFRTAと打鍵・実行キーを押します。複数ジョブが表示された場合は、最上部のジョブを選択してください。

ジョブ	ジョブ	ユーザー	番号
①	CRTPFRTA	QSYS	
-	CRTPFRTA	QSYS	
-	CRTPFRTA	QSYS	

ジョブの処理画面が表示されますので、「4. スプール・ファイルの処理」を選択します。

1. ジョブ状況属性の表示
2. ジョブ定義属性表示
3. ジョブ実行属性の表示 (活動状態の場合)
4. スプール・ファイルの処理

ファイルQPJOBLOGを表示します。

```

OPT   ファイル   装置／
⑤    QPJOBLOG   待ち行列
PRT01

```

ファイル内に、メッセージCPF0A03が表示されているかどうか確認します。

```

メッセージID . . . . . : CPF0A03

メッセージ . . : パフォーマンス・データ・ファイルは上位互換でない。
原因 -
ライブラリー QMPGDATA のパフォーマンス・データ・ファイルが前のリリース
のパフォーマンス・ツールで作成されたので、パフォーマンス・データを収集
することはできません。

```

このメッセージCPF0A03が表示されていた場合、パフォーマンス・データの変換が必要となります。

1. ジョブの即時終了

コマンドWRKACTJOB SBS(QSYSWRK)にて表示される、CRTPFRTDTAとQYPSPFRCOLの2つ (一方しか稼動していない場合は、その1つ)を即時終了します。

オプション4を入力してF4キーを押し、パラメーター「終了方法」を*CNTRLDから*IMMEDに変更後(その他はデフォルトで結構です)、実行キーを押します。

```

ジョブ名 . . > QYPSPFRCOL
ユーザー . . > QSYS
番号 . . . . >
終了方法 . . *IMMED

```

2. 変換先ライブラリーの作成

変換したパフォーマンス・データを保存するライブラリーを作成します。

コマンドCRTLIB QMPGDATA1と打鍵・実行キーを押します。

3. 旧バージョンのデータ変換

コマンドCVTPFRDTAと打鍵・F4キーを押します。以下のパラメーターをご参照のうえ、ご入力ください。入力完了後、実行キーを押しますと、対話ジョブとしてデータ変換が始まります。

```

FROM ライブラリー . . QMPGDATA
TO ライブラリー . . QMPGDATA1
ジョブ記述 . . . . *NONE
ライブラリー . . . .

```

4. 旧バージョンのデータ・ライブラリー削除

変換されたデータは、新たに作成したQMPGDATA1に保存されておりますので、旧バージョンのデータ・ライブラリーを削除します。コマンドDLTLIB QMPGDATAと打鍵・実行キーを押します。

5. 変換先ライブラリー名の変更

新たに作成したライブラリーの名前を変更します。コマンドRNMOBJと打鍵・F4キーを押します。以下のパラメーターをご参照のうえ、ご入力ください。

```
オブジェクト . . . . . QMPGDATA1
ライブラリー . . . . . QSYS
オブジェクト・タイプ . *LIB
新しいオブジェクト . . QMPGDATA
```

実行キーを押して完了です。

2-4. データが送信されない場合

まずは「2-1-1. 接続の確認」および「2-1-2. 接続の検証」で、データ通信が可能な環境であることをご確認ください。

次に、1つの回線資源を複数回線(例. PM for System iで使用するQ1PLINと、ROMSLIN1, QESLINEなど)で共用しているかどうかをご確認ください。

【確認方法】

まずPM for System iが使用している回線資源を調べます。コマンドWRKLIND Q1PLINと打鍵・実行キーを押します。次画面でオプション5.(表示)を選択し、ここで表示される「資源名」を確認します。

```
回線記述 . . : Q1PLIN
資源名 . . . : CMN01
```

Q1PLINの資源名: _____

続いてコマンドWRKHDWRSC *CMNと打鍵・実行キーを押します。上記で調べたQ1PLINと同じ資源にオプション5.(構成記述の処理)を選択します。

```
  CMB01      675A  操作可能
   LIN01      2745  操作可能
  ⑤  CMN01      2745  操作可能
     CMN02      2745  操作可能
```

ここで表示される回線が、Q1PLINと同じ資源を共有する回線です。

```
OPT   記述
      QESLINE
      QTILINE
      Q1PLIN
```

PM for System i 単独で使用する場合は結構ですが、共用する場合はコマンド:PMLINMONと打鍵・実行キーを押します。下記画面が表示されますので、実行キーを押して続行します。セットアップ時に既に設定済み(2ページ)の場合は結構です。

```

PM/400
回線制御

警告 : PM/400 回線制御機能は、PM/400 回線に必要な通信資源を使用
         していることがある他の回線を PM/400 がオフに変更できる
         ようにします。この機能を使用するには、PM/400 にオフへの
    
```

回線の登録画面が表示されます。最大12個まで登録可能です。装置フィールドは、最大2個まで登録が可能となっておりますが、1つしか装置記述がない場合はその1つのみ登録で結構です。

```

PM/400
回線制御

PM/400 自動回線制御を活動状態にしますか?  YES
LINE . . . . . AAALIN
  制御装置 . . . . . BBBCTL
  装置 . . . . . CCCDEV1
  装置 . . . . . CCCDEV2
    
```

入力情報の確認画面が表示されます。正しければ実行キーを押します。

```

PM/400
回線制御

PM/400 自動回線制御オプション . . . . : YES
      交換 (ECS) 回線資源記述
回線   制御装置   装置   装置
AAALINE BBBCTL   CCCDEV1 CCCDEV2
    
```

この後、再度テスト送信(4ページ)を行なってください。